

# 景況調査報告書

徳島県商工会議所連合会の景況調査結果について、次のとおり報告します。

1. 調査時点 令和5年3月31日
2. 調査対象時期 令和4年度 第4四半期
3. 調査対象数及び回収状況

項目 地域	調査対象数(社)	回収数(社)	回収率
徳島	130	89	68.5%
鳴門	55	47	85.5%
小松島	30	30	100.0%
吉野川	30	24	80.0%
阿波池田	25	19	76.0%
阿南	36	36	100.0%
合計	306	245	80.1%

業種	調査対象数(社)	回収数(社)
建設業	35	28
製造業	69	58
卸売業	47	35
小売業	91	71
サービス業	64	53

## 4. 概況

今期の県内景況は前年同期と比較して、売上は横ばい、売上単価は増加、売上数量、受注、収益はいずれも悪化となっているが、前期D I値と比べると改善を示している。

### ① 売上の動向

売上については、前期D I値と比べ8.3ポイント改善しており、前年同期の比較では、飲食料品小売業で横ばい、総合工事業、木材・木製品製造業、機械・金属製品製造業、繊維・衣服等卸売業、飲食料品卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、機械器具卸売業、織物・衣服・身の回り品小売業、機械器具小売業で減少となり、その他の業種では増加となっている。

### ② 売上単価の動向

売上単価については、飲食料品卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、織物・衣服・身の回り品小売業、機械器具小売業で横ばいとなり、その他の業種では減少となっている。

### ③ 売上数量の動向

売上数量については、職別・設備工事業、食料品製造業、自動車小売業、宿泊業、飲食店、運輸業、情報関連サービス業で増加、総合工事業、繊維工業、家具・装備品製造業、繊維・衣服等卸売業で横ばいとなり、その他の業種では減少となっている。

### ※来期の売上

来期の売上については、繊維・衣服等卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、宿泊業、飲食店、運輸業で増加、機械器具卸売業、機械器具小売業、コンビニエンスストアで横ばい、その他の業種では減少を見込んでおり、全体における来期売上高予想のD I値は△6.9ポイントとなっている。

### ④ 受注の動向

受注（製造業、建設業のみ）については、食料品製造業、繊維工業、家具・装備品製造業で増加、木材・木製品製造業で横ばい、その他の業種で減少となっている。来期の受注については、機械・金属製品製造業で増加を見込む以外は、すべての業種で減少を見込んでいる。

## ⑤ 収益の動向

収益については前期D I 値と比べ7. 2 ポイント改善しており、食料品製造業、家具・装備品製造業、自動車小売業、宿泊業、飲食店、情報関連サービス業で増益、職別・設備工事業、繊維工業、コンビニエンスストアで横ばいとなり、その他の業種では減益となっている。

来期の収益については、繊維工業、繊維・衣服等卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、コンビニエンスストア、宿泊業で増益を予想しているものの、その他の業種では減益を見込んでおり、収益予想のD I 値は△16. 4 となっている。

## ⑥ 設備投資の動向

設備投資については20. 5 %の企業が実施しており、総合工事業が53. 8 %、機械器具卸売業が50. 0 %、宿泊業が44. 4 %の順に多かった。

内容については、機械が23. 4 %、情報通信機器が22. 1 %、車両運搬具が20. 8 %の順となっている。投資額は、100万円以上500万円未満が31. 4 %、1000万円以上が27. 5 %、50万円未満が15. 7 %の順に多かった。

## ⑦ 資金繰りの動向

資金繰りについては、情報関連サービス業で好転、職別・設備工事業、繊維工業、木材・木製品製造業、家具・装備品製造業、機械器具卸売業、飲食料品小売業、宿泊業、運輸業で横ばい、その他の業種では悪化となっている。

来期の資金繰りについては、情報関連サービス業で増益、繊維工業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、コンビニエンスストア、運輸業で横ばいとなるほかは、悪化を予想している。

## ⑧ 雇用の動向

雇用人員については、総合工事業、繊維工業、木材・木製品製造業、コンビニエンスストアで増員、食料品製造業、繊維・衣服等卸売業、飲食料品卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、自動車小売業、宿泊業、飲食店、情報関連サービス業で横ばいとなり、その他の業種では減員となっている。

来期の雇用人員については、総合工事業、繊維工業、機械・金属製品製造業、飲食料品卸売業、飲食店で増員、職別・設備工事業、食料品製造業、繊維・衣服等卸売業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、機械器具卸売業、機械器具小売業、自動車小売業、コンビニエンスストア、宿泊業、情報関連サービス業で横ばいとなるほかは、減員を予想している。

## ⑨ 前期における今期の業績見通しとの比較

前期における今期の業績見通しとの比較については、繊維工業、自動車小売業、宿泊業、飲食店、運輸業で見通しより良く、総合工事業、職別・設備工事業、木材・木製品製造業、飲食料品小売業、情報関連サービス業で見通し通りだったほかは、見通しより悪かったとしている。

## ⑩ 業況見通し

来期の業況見通しについては、繊維・衣服等卸売業、コンビニエンスストア、宿泊業、飲食店、運輸業で好転、食料品製造業、建築材料、鉱物・金属材料卸売業、情報関連サービス業で横ばいとなる以外は、悪化を予想している。

地域別では、徳島は売上、売上単価、売上数量、受注、収益のすべての項目が改善した。鳴門は売上と受注が増加した以外は、売上単価、売上数量、収益がいずれも悪化した。小松島は売上数量と収益が悪化した以外は、売上、売上単価、受注がいずれも増加した。吉野川と阿波池田はすべての項目が悪化した。阿南は売上単価が増加した以外は、いずれも悪化した。

自由回答では、売上は回復基調にある一方で、光熱費や原材料価格、仕入単価の上昇に利益を圧迫されているとの声や、価格転嫁が十分に進んでいないとの声が複数の業種で聞かれた。また、今期は深刻な人手不足を指摘する声が複数寄せられており、求人を出しても応募がなく困っている事業所も見受けられた。

また、賃金引き上げについて尋ねたところ、賃上げを「実施する(した)」と回答した企業は3割未満(27.0%)にとどまった。実施しない主な理由として、原材料価格や電気代の高騰といったコスト負担の増加と、これら増加分を十分に価格転嫁出来ていない事等が挙げられ、直近の収益悪化に苦しむ中小企業にとって、現時点で賃金の引き上げは負担が大きいことが示された。(その他、詳細については報告書のp.29以降参照。)

①売上の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較、来期予想は今期との比較）

	増加 (%)	変わらない (%)	減少 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	25.6	40.6	33.9	△8.3
今期（1～3月期）実績	29.4	41.2	29.4	0.0
来期（4～6月期）予想	20.0	53.1	26.9	△6.9

②売上単価の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較）

	増加 (%)	変わらない (%)	減少 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	26.8	55.9	17.3	9.4
今期（1～3月期）実績	30.2	56.3	13.5	16.7

③売上数量の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較）

	増加 (%)	変わらない (%)	減少 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	18.1	44.5	37.4	△19.3
今期（1～3月期）実績	22.9	45.7	31.4	△8.6

④受注の動向（建設業、製造業のみ）

（前期実績・今期実績は前年同期との比較、来期予想は今期との比較）

	増加 (%)	変わらない (%)	減少 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	15.8	52.6	31.6	△15.8
今期（1～3月期）実績	19.6	57.6	22.8	△3.3
来期（4～6月期）予想	12.0	59.8	28.3	△16.3

⑤収益の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較、来期予想は今期との比較）

	好転 (%)	変わらない (%)	悪化 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	13.8	48.4	37.8	△24.0
今期（1～3月期）実績	16.8	49.6	33.6	△16.8
来期（4～6月期）予想	13.5	56.6	29.9	△16.4

⑥在庫の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較）

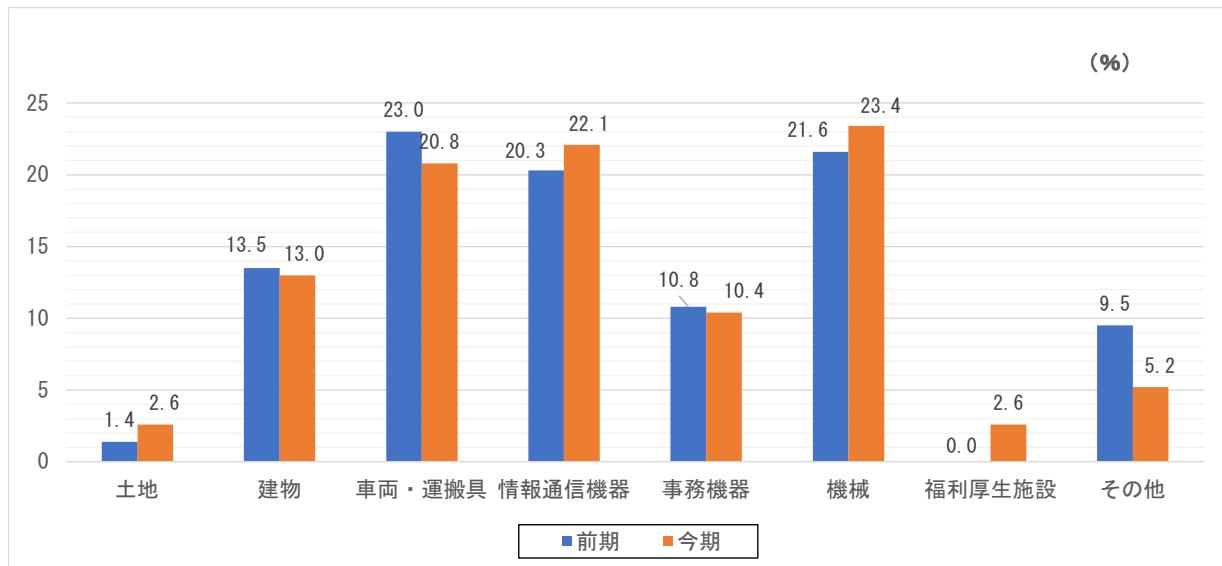
	不足 (%)	適正 (%)	過大 (%)	該当なし (%)
前期（10～12月期）実績	6.9	73.0	14.5	5.7
今期（1～3月期）実績	7.5	71.4	16.8	4.3

⑦設備投資の動向

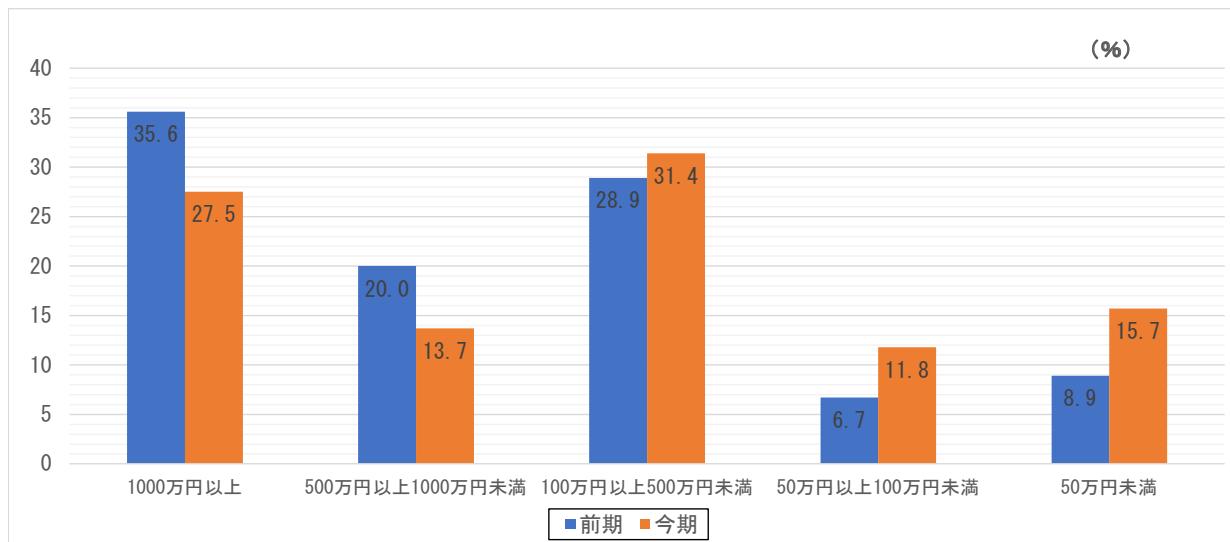
（1）実施状況

	実施した (%)	実施していない (%)
前期（10～12月期）実績	17.8	82.2
今期（1～3月期）実績	20.5	79.5

## (2) 実施内容（今期実施企業中）



## (3) 実施金額の内訳（今期実施企業中）



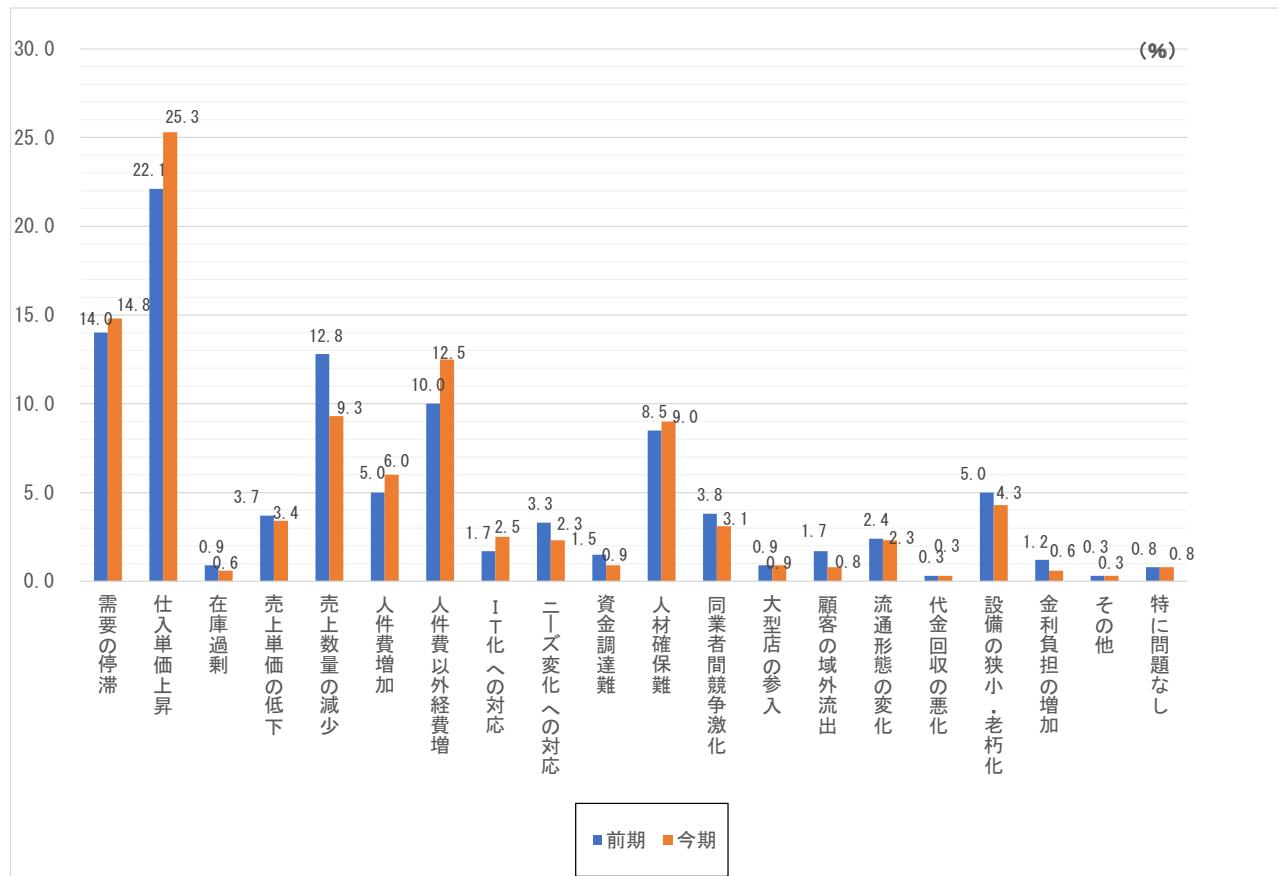
## ⑧資金繰りの動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較、来期予想は今期との比較）

	好転 (%)	変わらない (%)	悪化 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	4.7	72.7	22.5	△17.8
今期（1～3月期）実績	6.9	71.8	21.2	△14.3
来期（4～6月期）予想	5.7	75.0	19.3	△13.5

## ⑨雇用の動向（前期実績・今期実績は前年同期との比較、来期予想は今期との比較）

	増員 (%)	変わらない (%)	減員 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	9.1	79.4	11.5	△2.4
今期（1～3月期）実績	6.5	81.2	12.2	△5.7
来期（4～6月期）予想	5.7	88.2	6.1	△0.4

## ⑩経営上の問題点（複数回答：3つまで）



## ⑪前期における今期の業績見通しとの比較

	良い (%)	変わらない (%)	悪い (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	7.5	70.1	22.4	△15.0
今期（1～3月期）実績	11.0	68.6	20.4	△9.4

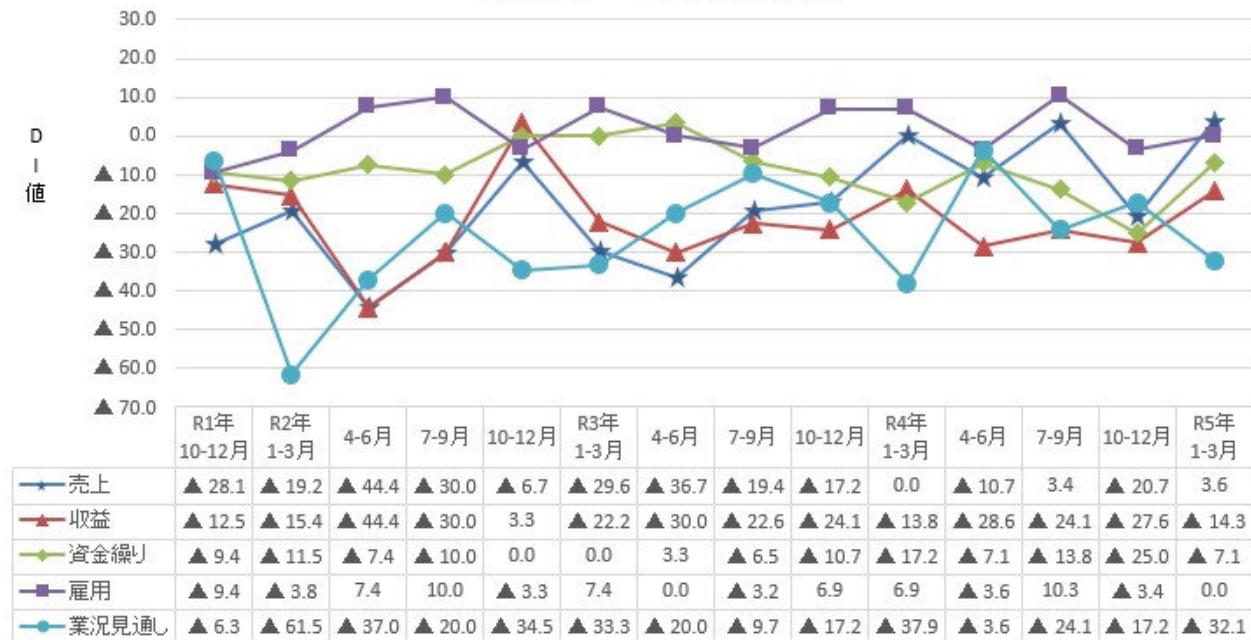
## ⑫業況見通し

	好転 (%)	変わらない (%)	悪化 (%)	D I 値
前期（10～12月期）実績	8.3	61.0	30.7	△22.4
今期（1～3月期）実績	15.1	56.7	28.2	△13.1

## ■業種別の動向

### I. 建設業

【建設業の主要項目動向】



※( )内は前期値

前年同期に比べ、売上は17.9%（13.8%）の企業が増加とし、DI +3.6（△20.7）ポイント、受注は22.2%（27.6%）の企業が減少とし、DI △14.8（△13.8）ポイント、収益は17.9%（31.0%）の企業が減少とし、DI △14.3（△27.6）ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI +0.0（3.4）ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が31.4%、人材の確保難が20.0%、人件費以外の経費増加が12.9%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△32.1（△17.2）ポイントとなっている。

#### I-1 総合工事業

前年同期に比べ、売上はDI △7.7（△28.6）ポイント、受注はDI △15.4（△35.7）ポイント、収益はDI △30.8（△21.4）ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI +0.0（0.0）ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が34.4%、人材の確保難が28.1%、人件費以外の経費増加が12.5%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△30.8（△21.4）ポイントとなっている。

#### I-2 職別・設備工事業

前年同期に比べ、売上はDI +13.3（△13.3）ポイント、受注はDI △14.3（6.7）ポイント、収益はDI +0.0（△33.3）ポイントとなっている。

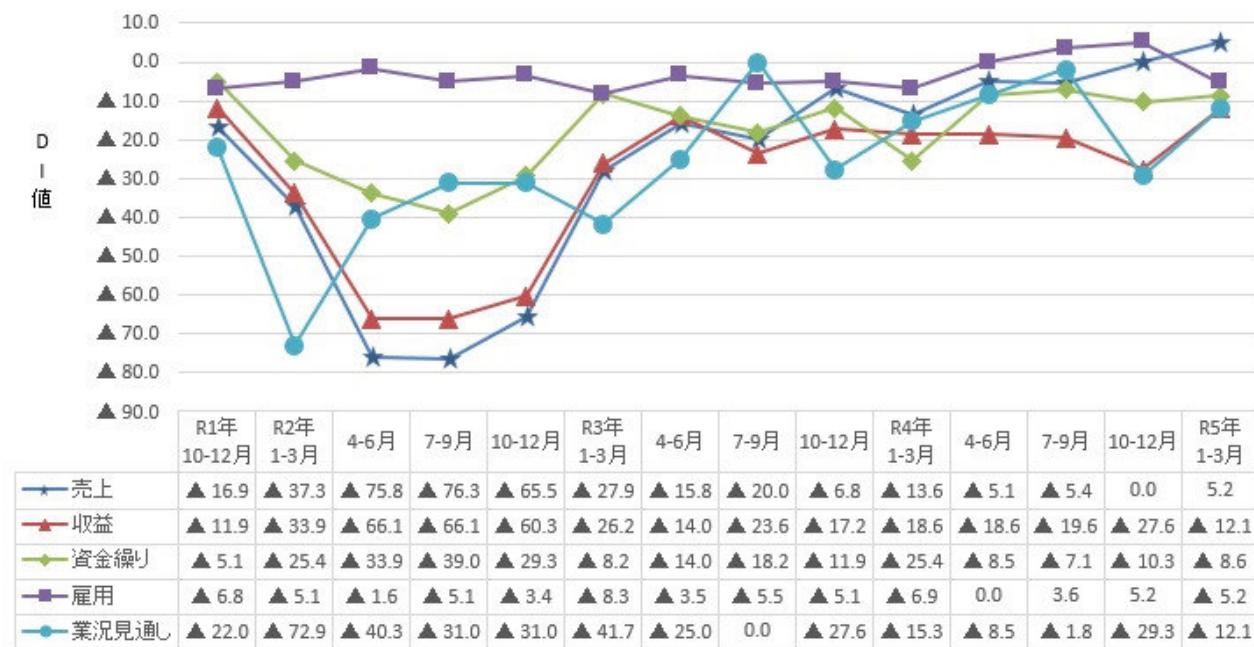
前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI +0.0（6.7）ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が28.9%、人件費以外の経費増加、人材の確保難がともに13.2%、売上数量の減少が10.5%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△33.3（△13.3）ポイントとなっている。

## II. 製造業

### 【製造業の主要項目動向】



前年同期に比べ、売上は31.0%（27.6%）の企業が増加とし、DI △5.2（0.0）ポイント、受注は28.1%（15.8%）の企業が増加とし、DI △5.3（△17.5）ポイント、収益は32.8%（37.9%）の企業が減少とし、DI △12.1（△27.6）ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI △12.1（△22.4）ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が28.7%、人件費以外の経費増加が21.0%、需要の停滞が13.4%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△12.1（△29.3）ポイントとなっている。

#### II-1 食料品製造業

前年同期に比べ、売上はDI △33.3（△14.3）ポイント、受注はDI △25.0（△23.1）ポイント、収益はDI △8.3（△42.9）ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI △8.3（△21.4）ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が32.4%、人件費以外の経費増加が20.6%、設備の狭小・老朽化が11.8%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは 0.0（△42.9）ポイントとなっている。

#### II-2 繊維工業

前年同期に比べ、売上はDI △20.0（0.0）ポイント、受注はDI △20.0（0.0）ポイント、収益はDI △0.0（△33.3）ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI △20.0（0.0）ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、人件費以外の経費増加が28.6%、仕入単価の上昇、人件費の増加とともに21.4%、売上単価の低下、IT化への対応、資金調達難、人材の確保難がいずれも7.1%の順となった。

来期、売上、受注はともに減少、収益は増益になるとしており、来期の業況予想のDIは△40.0（△16.7）ポイントとなっている。

## **II－3 木材・木製品製造業**

前年同期に比べ、売上はD I △30. 0 (22. 2) ポイント、受注はD I 0. 0 (△22. 2) ポイント、収益はD I △20. 0 (△33. 3) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I 0. 0 (△33. 3) ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が28. 6%、需要の停滞、人件費以外の経費増加がともに21. 4%、売上数量の減少、人材の確保難、設備の狭小・老朽化がいずれも7. 1%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のD I は△30. 0 (△66. 7) ポイントとなっている。

## **II－4 家具・装備品製造業**

前年同期に比べ、売上はD I 20. 0 (△11. 1) ポイント、受注はD I 20. 0 (0. 0) ポイント、収益はD I 10. 0 (△11. 1) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △20. 0 (△22. 2) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、需要の停滞が21. 4%、仕入単価の上昇、人件費以外の経費増加がともに17. 9%、売上数量の減少、人材の確保難がともに10. 7%の順に多かった。

来期、売上、受注、収益はいずれも減少・減益になるとしており、来期の業況予想のD I は△30. 0 (11. 1) ポイントとなっている。

## **II－5 機械・金属製品製造業**

前年同期に比べ、売上はD I △20. 0 (△11. 1) ポイント、受注はD I △20. 0 (△44. 4) ポイント、収益はD I △40. 0 (△33. 3) ポイントとなっている。

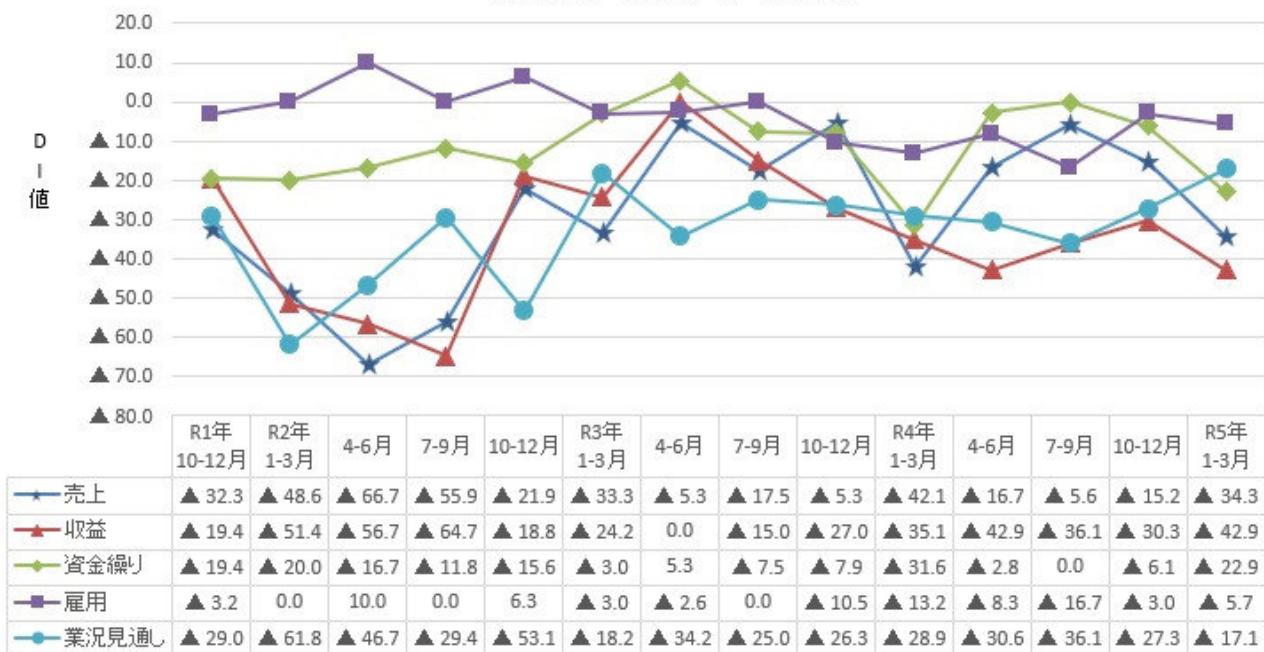
前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △30. 0 (△33. 3) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が30. 8%、人件費以外の経費増加が23. 1%、需要の停滞、売上数量の減少、設備の狭小・老朽化がいずれも11. 5%の順に多かった。

来期、売上は減少、受注は増加、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のD I は△10. 0 (△33. 3) ポイントとなっている。

### III. 卸売業

【卸売業の主要項目動向】



前年同期に比べ、売上は45.7% (36.4%) の企業が減少とし、D I △34.3 (△15.2) ポイント、収益は48.6% (45.5%) の企業が減少とし、D I △42.9 (△30.3) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △22.9 (△21.2) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が25.0%、需要の停滞が16.7%、売上数量の減少が9.4%の順に多かった。

来期、売上は増加、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のD Iは△17.1 (△27.3) ポイントとなっている。

#### III-1 繊維・衣服等卸売業

前年同期に比べ、売上はD I △25.0 (33.3) ポイント、収益はD I △25.0 (0.0) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △50.0 (0.0) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が27.3%、売上数量の減少、流通形態の変化（インターネット販売含む）とともに18.2%、需要の停滞、IT化への対応、人材の確保難、金利負担の増加がいずれも9.1%であった。

来期、売上、収益はともに増益になるとしており、来期の業況予想のD Iは 25.0 (△66.7) ポイントとなっている。

#### III-2 飲食料品卸売業

前年同期に比べ、売上はD I △33.3 (△50.0) ポイント、収益はD I △55.6 (△50.0) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △11.1 (△62.5) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が22.2%、需要の停滞、売上数量の減少、人件費以外の経費増加がいずれも14.8%、人件費の増加、人材の確保難、大型店の参入がいずれも7.4%の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のD Iは△33.3 (△62.5) ポイントとなっている。

### **III-3 建築材料、鉱物・金属材料卸売業**

前年同期に比べ、売上はD I △44.4 ( $\triangle 10.0$ ) ポイント、収益はD I △33.3 ( $\triangle 20.0$ ) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △22.2 ( $\triangle 10.0$ ) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が26.1%、需要の停滞が21.7%、人件費以外の経費増加、IT化への対応、流通形態の変化（インターネット販売含む）がいずれも8.7%の順に多かった。

来期、売上、収益はともに増加・増益になるとしており、来期の業況予想のD Iは 0.0 (0.0) ポイントとなっている。

### **III-4 機械器具卸売業**

前年同期に比べ、売上はD I △33.3 (0.0) ポイント、収益はD I △33.3 ( $\triangle 33.3$ ) ポイントとなっている。

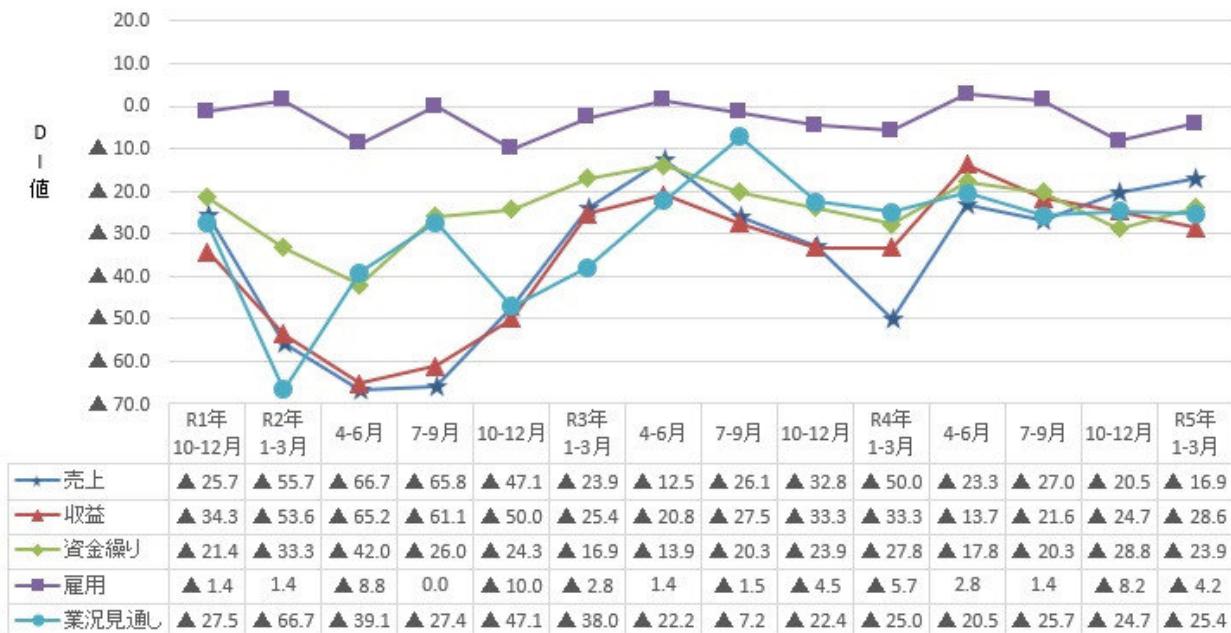
前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △16.7 ( $\triangle 16.7$ ) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が23.5%、需要の停滞、人件費の増加、人材の確保難がいずれも17.6%、売上単価の低下、売上数量の減少、設備の狭小・老朽化、金利負担の増加がいずれも5.9%の順に多かった。

来期、売上は横ばい、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のD Iは△33.3 (0.0) ポイントとなっている。

## IV. 小売業

【小売業の主要項目動向】



前年同期に比べ、売上は 38.0% (39.7%) の企業が減少とし、DI △ 16.9 (△ 20.5) ポイント、収益は 40.0% (35.6%) の企業が減少とし、DI △ 28.6 (△ 24.7) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI △ 22.5 (△ 26.0) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 22.7%、需要の停滞が 19.5%、売上数量の減少が 13.0% の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△ 25.4 (△ 24.7) ポイントとなっている。

### IV-1 織物・衣服・身の回り品小売業

前年同期に比べ、売上は DI △ 30.4 (△ 28.6) ポイント、収益は DI △ 30.4 (△ 28.6) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI △ 34.8 (△ 42.9) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、需要の停滞が 24.6%、仕入単価の上昇が 21.3%、売上数量の減少が 8.2% の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△ 26.1 (△ 14.3) ポイントとなっている。

### IV-2 飲食料品小売業

前年同期に比べ、売上は DI 0.0 (△ 26.3) ポイント、収益は DI △ 29.4 (△ 31.6) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI 0.0 (△ 26.3) ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 23.8%、需要の停滞が 16.7%、売上数量の減少が 14.3% の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のDIは△ 29.4 (△ 31.6) ポイントとなっている。

### **IV-3 機械器具小売業**

前年同期に比べ、売上はD I △ 22. 2 ( $\triangle 22.2$ ) ポイント、収益はD I △ 44. 4 ( $\triangle 44.4$ ) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △ 44. 4 ( $\triangle 33.3$ ) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 24. 0%、需要の停滞が 20. 0%、売上数量の減少が 12. 0% の順に多かった。

来期、売上は横ばい、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のD I は△ 44. 4 ( $\triangle 11.1$ ) ポイントとなっている。

### **IV-4 自動車小売業**

前年同期に比べ、売上はD I - 40. 0 (28. 6) ポイント、収益はD I - 20. 0 (28. 6) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I - 20. 0 (0. 0) ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、需要の停滞が 30. 0%、仕入単価の上昇が 20. 0%、資金調達難、顧客の域外流出（インターネット販売含む）、流通形態の変化（インターネット販売含む）、設備の狭小・老朽化がいずれも 10. 0% の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のD I は△ 40. 0 (14. 3) ポイントとなっている。

### **IV-5 コンビニエンスストア**

前年同期に比べ、売上はD I - 20. 0 ( $\triangle 20.0$ ) ポイント、収益はD I - 0. 0 ( $\triangle 40.0$ ) ポイントとなっている。

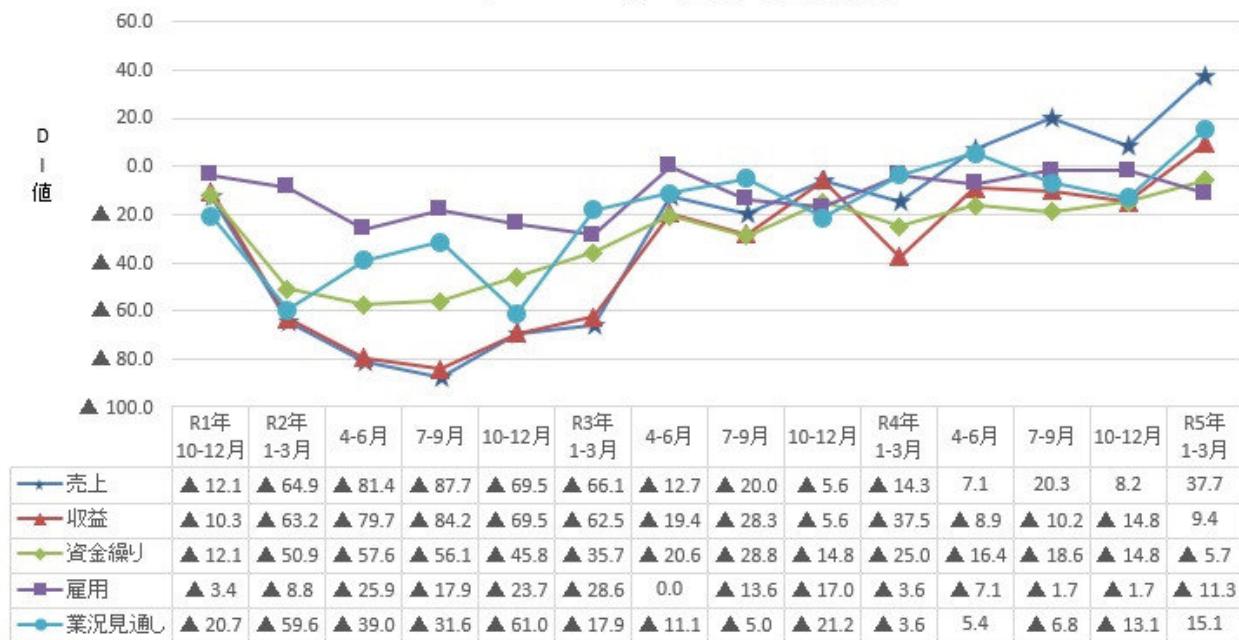
前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I △ 20. 0 (20. 0) ポイントとなり見通しより悪かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 28. 6%、人件費の増加が 21. 4%、人件費以外の経費増加、同業者間の競争激化がともに 14. 3% の順に多かった。

来期、売上は横ばい、収益は増益になるとしており、来期の業況予想のD I は - 20. 0 ( $\triangle 80.0$ ) ポイントとなっている。

## V. サービス業その他

【サービス業の主要項目動向】



前年同期に比べ、売上は 56.6% (39.3%) の企業が増加とし、DI 37.7 (8.2) ポイント、収益は 34.0% (24.6%) の企業が増加とし、DI 9.4 (△14.8) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI 15.1 (0.0) ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 22.1%、需要の停滞、人件費以外の経費増加、人材の確保難がいずれも 12.9%、売上数量の減少、人件費の増加がともに 7.9% の順に多かった。

来期、売上は増加、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のDIは 15.1 (△13.1) ポイントとなっている。

### V-1 宿泊業

前年同期に比べ、売上は DI 88.9 (66.7) ポイント、収益は DI 55.6 (50.0) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI 33.3 (25.0) ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 30.4%、人材の確保難が 21.7%、設備の狭小・老朽化が 13.0% の順に多かった。

来期、売上、収益はともに増益になるとしており、来期の業況予想のDIは 33.3 (25.0) ポイントとなっている。

### V-2 飲食店

前年同期に比べ、売上は DI 54.5 (8.3) ポイント、収益は DI 9.1 (△41.7) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、DI 18.2 (0.0) ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、仕入単価の上昇が 30.0%、人件費以外の経費増加が 13.3%、売上単価の低下、人件費の増加がともに 10.0% の順に多かった。

来期、売上は増加、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のDIは 36.4 (0.0) ポイントとなっている。

### V-3 運輸業

前年同期に比べ、売上はD I 30.8 ( $\triangle 11.8$ ) ポイント、収益はD I  $\triangle 7.7$  ( $\triangle 35.3$ ) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I 15.4 ( $\triangle 23.5$ ) ポイントとなり見通しより良かったとなっている。

経営上の問題点は、人件費以外の経費増加が22.2%、仕入単価の上昇、人材の確保難とともに19.4%、需要の停滞が13.9%の順に多かった。

来期、売上は増加、収益は減益になるとしており、来期の業況予想のD Iは 7.7 ( $\triangle 47.1$ ) ポイントとなっている。

### V-4 情報関連サービス業

前年同期に比べ、売上はD I 28.6 ( $\triangle 42.9$ ) ポイント、収益はD I 28.6 ( $\triangle 42.9$ ) ポイントとなっている。

前期における今期の業績見通しと比べた今期の実績は、D I 0.0 (0.0) ポイントとなり見通し通りだったとなっている。

経営上の問題点は、需要の停滞が31.3%、仕入単価の上昇、人件費の増加、ニーズ変化への対応がいずれも12.5%、売上単価の低下、売上数量の減少、人件費以外の経費増加、人材の確保難、同業者間の競争激化がいずれも6.3%の順に多かった。

来期、売上、収益はともに減少・減益になるとしており、来期の業況予想のD Iは 0.0 (0.0) ポイントとなっている。